

情報を音声に変えて 伝える情報と伝わる愛情

視覚に障がいのある人の目となり声を届ける
音訳ボランティア

久野 訓子さん (豊科)・鈴木 淳子さん (三郷)



ある人の目になつて活字を音声にして伝える音訳ボランティアを初めて知りました。そこで「自分も本を読んで誰かの役にたてたら」と思つたのがきっかけです。

久野 音訳ボランティアになる前は、子どもたちに絵本の読み聞かせを行っていました。絵本の世界観や情景を言葉で伝えるうちに、読み伝えることに興味をわき、視覚に障がいがある人のために音声で情報を伝える音訳ボランティアの存在を知ったことがきっかけです。

久野 音訳ボランティアになる前は、子どもたちに絵本の読み聞かせを行っていました。絵本の世界観や情景を言葉で伝えるうちに、読み伝えることに興味をわき、視覚に障がいがある人のために音声で情報を伝える音訳ボランティアの存在を知ったことがきっかけです。

久野 「最近細かい字が見づらくて、なかなか本を読む気になれない」と思っている人にはぜひ、活用してもらいたいんです。いくつになっても「情報を得ることの楽しみ」を持ち続けてもらい、人生を豊かにしていただけたらうれしいです。

音声に込める思い

鈴木 視覚に障がいがある人が知りた

音訳する上で気を付けていること



(左)鈴木 淳子さん
(右)久野 訓子さん

MEMO
○音訳ボランティアの募集
市では、広報紙の読み上げ、対面朗読などを行う音訳ボランティアを随時募集しています。詳細は中央図書館(TEL 84・0111)まで問い合わせください。
○図書館の読書支援サービス
大活字本の購入や読書バリアフリー用品の設置など、視覚障がいがある人や読書することが困難な人のためのサービスを提供しています。読むことにお悩みがある方はぜひご相談ください。



触れて感じる 世界の文化

8月11日 あづみの国際DAY! 2024



穂高交流学習センター「みらい」で世界の文化に親しむ国際交流イベント(あづみの国際化ネットワーク主催)が開かれました。会場では、民族音楽やダンスなどのステージ発表のほか、各国を紹介する展示ブースが出展。訪れた人は、軽快な伝統楽器の演奏に聞き入ったり、出展者と交流しお互いの文化の違いを話したりして、多文化共生への理解を深めていました。

職場の同僚4人と緩急ある民族ダンスを披露したインドネシア出身のウィング・ガーネタさん(明科)は「緊張したけど、たくさんの人が見てくれてうれしかった」と話してくれました。

夏の夜に 伝統の舞台

8月24日 第33回信州安曇野薪能

雷雨のため会場を屋内へ変更し、第33回信州安曇野薪能(実行委員会主催)が行われました。ボランティアスタッフが朝から明科体育館にセットを制作。来場した約500人が笛や鼓が奏でる伝統芸能の世界に見入っていました。身の上のはかなさや世の無常を嘆いた世阿弥の傑作・能「江口」を主宰の青木道喜さんと人間国宝の宝生欣哉さんが共演。続く狂言「太刀奪」では演者の三人三様の動きが笑いを誘っていました。

開演前には子ども能楽教室による能も披露され、出演した坪田真緒さん(豊科)は「緊張したけど達成感がすごく、楽しかった」と話し、静かな動きの中にも強弱がある青木さんの舞を吸い込まれるように見ていました。



雨にも負けずに輝く 大輪の花

8月14日 第17回安曇野花火



安曇野花火が明科犀川河川敷内御宝田遊水池で開かれました。「心ふるえる 安曇野の夜」をテーマに、消防団音楽喇叭隊の演奏で打ち上げが始まると、約4000発の花火が次々と夜空を彩りました。当日は雨のため時間を短縮しての開催となりましたが、観客は視界いっぱいに広がる鮮やかな花火を見上げていました。そしてフィナーレに特大のスターマインが打ち上がると、会場は輝く光と力強い音に包まれました。

初めて訪れた三浦安奈さん(松本市)は「花火の音を体で感じるほどの迫力があって感動した。雨だったけど来てよかった」と話してくれました。

